

## 湯浅八郎

昆虫学者・教育者・キリスト者。第10・12・13代同志社総長を歴任、国際基督教大学設立に関わり初代学長。

ゆあさはちろう

帝国議会始 1890 =

東京市赤坂で、湯浅治郎と初子の五男に生まれる。父は、群馬県安中の大きな商家(有田屋)の長男という実業家で、群馬県会議長を10年務めて、廃娼問題などに尽力し、この年の第一回衆議院議員に当選した政治家、父母は父の養父次郎吉とともに新島襄から受洗、放蕩癖のある次郎吉は、遊郭通いが原因で、教会から二度除名され、養父を反面教師に、真面目で禁欲的になった治郎は、安中教会で新島襄から同時に受洗した30人の信徒の指導的人物として活躍するほどのクリスチャン・ホームで、父方の叔父に聖書学者として知られる湯浅吉郎がいる。父は財政通で、そのまま議会で止まれば大蔵大臣になると言われるほどに有能であったが、この年、新島襄が死去して危機に直面した同志社を救うべく、

大本教 1892 = 2歳

日清戦争始 1894 = 4歳

衆議院議員の職を擲って、一家で京都に転居、同志社職員として、以後20年無給で働く。  
横井小楠の最初の弟子になった熊本県水俣の酒造業も営む裕福な郷土徳富一敬の娘で、徳富蘇峰・徳富蘆花兄弟の姉にあたり、日本初の男女共学とされる熊本洋学校に学んで、キリスト教信仰に導かれた母初子に、絶対に嘘をつくことのないよう、厳しく育てられて多大な影響、

Bushidou 1899 = 9歳

同志社に献身的に奉仕するも、やがて失意のなか去ることになる父の姿を見ながら、

教科書疑獄 1902 = 12歳

日露戦争終 1905 = 15歳

同志社普通学校に入学、  
三年の時、原田助校長が来宅し、落第を宣告され、自分のことを見つめ直す契機になり、受洗して、

アヲヲ 創刊 1908 = 18歳

卒業、とにかくアメリカに行きたく、渡航船賃以外は全て自分でという条件で、単身渡米、カリフォルニア州リヴィングストンの開拓農場の果樹園で労働に従事するうち、学ぶことが必要と、

大逆事件判決 1911 = 21歳

明治天皇没 1912 = 22歳

カンザス農業大学へ入学して、昆虫学を学び、

民本主義 1916 = 26歳

ロシア革命 1917 = 27歳

卒業すると、イリノイ州立大学大学院に進んで、昆虫学を専攻し、

ベルリン条約 1919 = 29歳

キリスト教信仰が揺らぎ始めるが、YMCAの活動や、ホームステイでの信仰を見て、キリストを再発見、翌年にかけて、アイオワ州デモンでの学生集会に参加、キリスト教にもとづく国際主義、近隣の国々と兄弟愛をもって付き合いたいと思うようになる。

大暴落 1920 = 30歳

\*Ph.D. (博士号)を取得、キリスト教信者として奉仕活動すべきかという悩みを越えて、昆虫学者の道を選択、以後の人生に確信を持つに至った。

原敬首相暗殺 1921 = 31歳

関東大震災 1923 = 33歳

イリノイ大学より「A classification of the larvae of the Tenthredinoidea」刊行。アメリカ永住を望んでいたが、日本人女性鶴岡清子と結婚すると、妻の希望で帰国を決意、ヨーロッパ数カ国を回って帰国、

護憲三派圧勝 1924 = 34歳

新設まもない京都帝国大学農学部教授に招聘され、昆虫学者の道を歩み始める。以後12年、最も幸福で安定した生活を送りながら、当時としてはリベラルな教育を行い、今西錦司らを育てる。

円本時代始 1926 = 36歳

東京帝国大学から理学博士。論文の題目は「A classification of the Larvae of the Tenthredinoidea(ハバラ垂目の幼蟲の分類)」。

満州事変 1931 = 41歳

五一五事件 1932 = 42歳

国際連盟脱退 1933 = 43歳

学生の靖国神社不参拝が問題になった上智大学排撃運動、カトリック系女学校が廃校に追い込まれた(奄美)大島高等女学校排撃運動。鳩山一郎文相による瀧川幸辰の免官要求が勃発(滝川事件)、農学部評議員として唯一人、反対する法学部の立場を支持したため、文部省から、要注意人物と目される。戦後、京大総長になった瀧川幸辰は'尊敬する一人'と述懐している。

帝人疑獄事件 1934 = 44歳

植民地台湾でも同様な台南長老教中学校排撃運動が起こるなど、キリスト教の同志社への挑戦がきつくなり、黙示録時代ともいえる最中に、逝去直前の第9代総長で、義兄の大工原銀太郎から病床に呼ばれて、後事を託され、神のもとに、一生かけるつもりであった昆虫学を投げ捨てる決心、総長事務取扱となり、

芥川直木賞始 1935 = 45歳

\*京都帝国大学を退職して、正式に第10代総長となる。難局に対処すべく、同志社独自の教学精神を貫こうとして、政府・軍部と対立。新島襄の再来を思わせる迫力ある式辞を述べるも、

二二六事件 1936 = 46歳

前年に同志社岩倉高等商業学校の校舎復旧に関わり、武道部学生が打ち付けた神棚を撤去させようとして軍部が介入(神棚事件)、法学部教授が投稿した論文の掲載を拒否しただけでなく解雇してしまう国体明徴論文掲載拒否事件はじめ、勅語誤読事件など、問題になる事件が相次ぎ、

日中戦争始 1937 = 47歳

同志社綱領が問題になって、配属将校や、大日本生産党・洛北青年同盟など同志社内外の右翼を巻き込む紛争に発展、そこにチャペル籠城事件が起きて、同志社をつぶすわけにはいかないと、退職を決断。

健保+総動員 1938 = 48歳

第二次大戦始 1939 = 49歳

日米開戦 1941 = 51歳

インド・マドラスで行われた世界キリスト教宣教会議に出席し、  
米国に渡り、宣教会議でのメッセージを伝えるために全米各地で講演を行った。  
リバーサイド日米キリスト者会議で米国のキリスト教会に、「アメリカ教会への感謝状」を贈った。日米開戦後も米国に残って、居留地に拘留された在留邦人や日系人を激励して回る。

年金+総武装 1944 = 54歳

敗戦 1945 = 55歳

新憲法公布 1946 = 56歳

新憲法施行 1947 = 57歳

終戦後、  
日本に帰国。  
請われて、再び同志社第12代総長に就任し、同志社大学をはじめとする、戦後の同志社の土台作りに尽力。京都大学学長鳥養利三郎、大阪大学総長末川博、関西大学学長岩崎卯一、関西学院大学院長神崎驥一とともに、京都大宮御所に召し出され、昭和天皇の前で座談会形式により、「最近の学内事情」について奏上。

極東裁判決 1948 = 58歳

朝鮮戦争始 1950 = 60歳

「無防備日本の使命」、  
\*新設の国際基督教大学(ICU)学長に招聘されると、神からの使命と引受け、設立準備に携わるべく、任期半ばで同志社総長を退任、

独立回復 1951 = 61歳

TV放送始 1953 = 63歳

安保闘争 1960 = 70歳

たいがい病始 1961 = 71歳

全国総合計画 1962 = 72歳

ICU開校とともに、初代学長に就任、同大学の礎を築く上で重要な役割を果たして、

退任。

退任後も長く同大学理事長の職にあった。晩年は、民芸に強い関心を寄せ、京都民芸協会会長を務め、

ドルショック 1971 = 81歳

石油ショック 1973 = 83歳

角栄金脈辞任 1974 = 84歳

創立25周年記念として、ICU博物館設立の計画がなされ、この間、自身の生活信条を、「生きることは愛すること、愛することは理解すること、理解することは赦すこと、赦すことは赦されること、赦されることは救われること」という言葉に残している。

JALハイジャック 1977 = 87歳

成田衝突 1978 = 88歳

貿易摩擦問題 1980 = 90歳

1981 = 91歳

キリスト教功労者賞。同志社より「あるリベラリストの回想～湯浅八郎の日本とアメリカ」が刊行され、

ICUより、西元宗助との対談「湯浅八郎先生に聞く：信仰と生活」が刊行されるなか、

「私の民芸道観」。ICUに、民芸品などコレクションを寄贈し、

起工まもなく、没した。ICU同窓会より、「若者に幻を」刊行、  
翌年、大学博物館湯浅八郎記念館がオープンした。新島襄の再来と評されるほど似た生き方であった。